

平成 29 年度 FD 実施報告書

研究科・学部・学科	栄養科学研究科
FD 取り組みへの理念・目標 先端的、かつ国際的レベルでの栄養科学の教育研究を行い、実践を重んじ、専門的知識と技術を備えた栄養科学領域の研究者、指導者並びに実践者の養成を目的とする本研究科の学則の定めるところにより、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施することを本研究科の FD 推進の目標とする。	
回数、期間、実施日等	実施事項・内容、実施組織、評価項目等
①～③の取り組みは、ほぼ同時並行で実施した。	平成 29 年度は、博士前期・後期課程の教育向上のための教育内容、方法、成果の充実を目指して以下の FD 活動を実施した。 ① 教員の研究指導力・教育力の涵養 ・平成 29 年 1～3 月に在学生および修了生を対象に実施した学修についてのアンケート結果が研究指導・教育に反映されるように、研究科委員会で議論し FD を図った。さらに平成 30 年 1 月に在学生を対象に実施したアンケート結果から、FD の効果を検証した。 ・平成 29 年度入学生から学位論文複数指導制を導入し、6 月に副指導教員 1 名を指名して組織的な教育・研究指導を図った。 ②教育内容・方法・環境の改善 ・平成 28 年度より博士前期課程コースワークに導入した福岡歯科大学付属介護老人保健施設での実践的教育を継続実施し、学生の創造力・自立力の涵養を図った。 ・円滑な学位授与を促進するため、リサーチワークの中間発表会を大学院生主導で試験的に実施し（平成 29 年 5 月 11 日）、平成 30 年度の本格実施に向けて問題点を抽出した。 ・学修についてのアンケート結果から明らかになった不十分な教育環境の改善を目的として、コースワーク、リサーチワークに必須である IT 機器の整備に取り組み、平成 30 年度より、各学生への PC 貸与および各自習室へのプリンタ配備が決定した。 ・博士前期課程における、社会人の再教育を念頭とした魅力的な教育プログラムの開発、およびティーチング・アシスタント(TA)制度の改革については検討段階に留まった。 ③グローバル教育の推進 ・「さくらサイエンスプラン事業」の一環として、インドネシアの大学院生・大学生・高校生との交流会を実施するとともに、九州大学大学院制御工学研究室の大学院生との交流をはかった（平成 29 年 11 月 7、9 日）。 ・英語のプレゼンテーション能力の涵養を目的としたコースワークの創設については、検討段階に留まった。

「教育システム改革 2014 (FD2014)」の進捗状況 （大学院は該当する項目のみ記入）

項目	主な実施内容	進捗状況	補足説明
体系的な教育課程の編成	ナンバリングの導入	☒ 未着手 ☐ 検討中 ☐ 実施中 ☐ 実施済	今後、必要に応じて、大学院運営委員会にて検討していく。
授業科目の組織的な管理	ルーブリックの導入	☒ 未着手 ☐ 検討中 ☐ 実施中 ☐ 実施済	今後、必要に応じて、大学院運営委員会にて検討していく。
教員の教育力に対する評価の導入	授業アンケート結果の組織的な活用	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☐ 実施中 ☒ 実施済	在学生および修了生を対象とする学修についてのアンケート結果を組織的に活用した。
教育方法の改善	アクティブラーニング（特にPBL）の推進 PBL：課題解決型授業	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☐ 実施中 ☒ 実施済	福岡歯科大学付属介護老人保健施設での実践的教育を実施した。
グローバル教育の推進	グローバル教育の導入	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☒ 実施中 ☐ 実施済	インドネシアの大学院生・大学生・高校生との交流会を実施した。
高大接続教育の推進	高大接続教育の推進	☐ 未着手 ☐ 検討中 ☐ 実施中 ☐ 実施済	大学院教育なので該当しない。